

# さくらんぼ大会2010運営レポート

2010年6月26日-27日 山形市・山辺町



山形のさくらんぼ争奪大会  
2日間にナイトOも提供した楽しめる3レース。  
参加者も年々微増し、今年は3レースに延べ900名。  
学生が多く会場は活気で若さがあふれて賑やかだ。



学習展示館前広場、青空会場だ。

## ■首謀者？の狙いは二つ■

狙いの一つは、山形県で毎年オリエンテーリング大会を開催すること。

平成11年の東日本大会、山形県は主管県であったが、県内の自治体からはことごとく敬遠され、テレインと地図調査、運営スタッフに問題を抱えたまま、漸く県南の南陽市での開催に漕ぎ着けた経緯がある。

敬遠の理由は簡単だった。金がなかったことだ。大会後援の話を持っていくとバブルがはじけて財政が窮屈になり、スポーツやレクリエーションには助成金を捻出できなくなったのである。

ならば、赤字覚悟で自分で地図を書き、自分で大会を開こう、と、決めて地元公民館行事として開いた大会が始まりである。

二つ目の狙いはネーミングの「さくらんぼ」。

無意識に付けたネーミングであったが当初はさくらんぼの収穫期とずれていて少し戸惑った。しかも、東根市は駅名をはじめ、建物や施設等、会社名や行事名に公私混同してことごとくさくらんぼの冠がついているのである。

ここでも私は決心した。ならば、賞品をさくらんぼにしてさくらんぼの収穫期に大会を開こう。美味しく高価な佐藤錦にこだわれば、山形名産の宣伝にもなる訳だから、と自分で得心した。



フィニッシュレーンに入る咲和ちゃん

## ■クラスの数は日本一■

会場は山形市街から西へ車で30分、出羽丘陵の一角にある広大な山形県民の森。

今回、最大の特徴は大学新入生クラスを設置したことである。おそらく学連関係以外の大会としては初めてと自負する。他にAクラスの統合をなくしマスターズクラスは5歳ごとに設置し、年少クラスも統合なしにしたので設置したクラス数は実に74クラスに上った。これはJ O AのAカテゴリを上回り、ローカル大会としてはおそらく日本一であろう。このことは競技性を年少者と高齢者に配慮した公平な競争性を保つことになった。

今後の課題は、参加者の中心である20歳～21歳クラスの入賞者にさくらんぼの分散配分の検討だ。



ラストで W10 の季香ちゃんに追いつかれた M10 の空来君

## ■1日目遠来参加者に配慮■

ミドルのスタートは13:59から始まった。M10にエントリーした山岸虎次郎君はスタートエリアに居る大勢のみんなに声援を受け、臆することなく軽快な足取りで飛び出していた。



遠来の方には到着時刻や帰宅時刻に配慮し、要望を受け入れている。ミドルのウィニングが全般的に設定時間より数分多かったが、テレイン中央部分

に南東―北西に横たわる板橋沼がレグ選択の影響を受けた結果か。

さすがMEのトップ3は1:22~3:07オーバーに抑えてフィニッシュした。



屏風のように立つ北大新入生



複数の協賛社からうれしい協賛品



↑ ↓ 激しいミドルのフィニッシュ



続々とラスポに向かうランナー



↓ 綺羅ももう5年生だ、↑ 幸に続け



### ■人気のナイトーオリエン■

ナイトーOの参加者は若者が多い。今年も2大学を中心に200名。山形市西部にある西公園が会場。この公園はオープンして8年。市民の夜間利用者も多くテニスコートはライトアップされ、周囲の遊歩道も等間隔に照明が灯っている。



半そで短パンでもOKのナイトO

プランナーは明・暗のコントロールを巧みに組み合わせて眼の暗調応を狂わせようとした、しかし、植栽した木々も樹高が低くオープンが多い公園では、元気に走り回る若者に軍配が上がったようだ。

ところで、ナイトーOでは昨年に続いて隠しコントロールを用意し、そこで通過証明(シール)を貰ってフィニッシュしたらさくらんぼを一粒もらえる仕組みにした。そのコントロールは大樹(さくに囲まれた独立樹)であり、目立つようにライトを点け音楽?をスピーカーで流していたのだが、女子競技者は不審者と間違えて遠ざかり、全体の1/3の通過者で用意したさくらんぼが余る事態になった。

この夜、折角の月食も生憎の曇りで観

測不能だった。

ナイト会場から宿舎まで3km。今年は何組のカップルが誕生したか?



スタート碎入り前のピブNOチェック

### ■雨のロングレース■

昨日の暑さはどこへやら? 降雨はそれほど強くはないがロングは雨の中の戦いとなった。

地図は2005年の沼の森IIをリメイクして「沼の森2010」となる。5月の調査開始時点は可能度抜群のA、毎週末調査に入るたびに数十センチづつ草丈が伸び、コントロールに予定した微地形が調査者も確認できないほど草に覆われ、ハッチがかり、何回かの試走で漸くコースが決定した。

### ■困ったスタッフの激減■

ロングは朝から小降りの雨、正午過ぎには本降りになり、少しでも早く帰宅したい参加者から表彰式時刻の繰上げ要請を受ける。予定していたスタッフが直前になって5名も参集できず、ぎりぎりの人数で競技処理していてピンチ状態がなかなか理解できないらしい。

計センは総合成績の集計中であつたが、確定クラスから表彰することにして30分繰り上げ、計センとタイアップすることにした。うまく行くか心配であつたが、案の定、順位とタイムと整合せず一端名前を読み上げてから、後回しになったり若干の混乱が生じた。

山形在住の競技部門スタッフは競責の柏倉1名のみ、スタッフの少数精鋭主義も今回はほぼ限界状態になった。

来年は回収されたアンケートの対策より先に、スタッフの確保であることが筆者の反省であり最優先の課題である。

ご参加の皆様、運営者の皆様、来年も会場で会えるようにご協力・ご支援のほどをよろしくお願いいたします。

(運営責任者 武石雄市)